

OB会10年の総括

OB会事務局長
「やまざと」編集長
舟田 節子

文芸春秋二月号の新年特別企画「失わなかった十年」を、興味深く読みました。もちろん彼・彼女らは、本命・本業の中での活躍。私の背負い込んだOB会は、その点、極楽トンボの世界。本業の学習塾の方が、むしろ、少子化、ゆとり教育、1年前の突然の文科省の変節と、時代の波をかぶってきました。

そうでありながらも、OB会の方に、より最終責任者としての決断…時代を読み、人心を図り、収支を睨みながらの運営と、受け身でいる訳にはいかなかった十年が流れました。牛後でもない、鶏口でもない、蟻の触角という格違ひながらも、十年をキーワードとする限りは、共鳴部分の多い特集でした。

さて、前号にて「事務局長」と「編集長」辞任を予告。あと云々を指示する意志はないながら、十年を総括してお伝えする責任は残っていると考えます。

平成五年三月にOB会再興の趣意書を発送した者として、おそらく今後も出ることのないであろう十年運営してきた者として、その結論を提示する…それも、OB会費を振込んでいただいた方々への、本当の収支報告であろうと考えます。

なお、この十年の間には初めて「OB会のある状態で現役時代を過ごした」OB達が巣立っていきました。果たして「OBニュータイプ」が登場したのか？その結果も、ある種の、というより辛辣な収支報告であるように思います。

まず簡単にKUWV・OB会の歴史を復習します。35周年記念誌上巻 p.341～からが該当します。

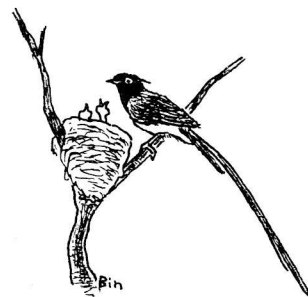
《記念行事とOB会》（掲載稿に加筆）

昭和33年に誕生した金大ワングル部では、十周年、十五周年、二十周年、二十五周年、三十周年の記念行事が、「現役主催、OB招待」の形態で開催されてきた。十五周年のみ、山小屋ベルクハイムが会場となり、後は白山南竜キャンプ場が利用されている。記念行事の前後は現役とOBとの交流が活発になり、数々の提言もなされた。

十五周年のあたりまで、さして機構がなくてもOBは把握でき、現役内のOB係が連絡事務にあたった。

その後もOBの数は増え続け、年代差が広がる。それでも、夏合宿参加者が80名を越えていた時代だった。隆盛な現役には干渉不用、無心と招待に応ずるのみ…が、当時のOB。一方現役側は連絡費負担と事務に辟易し、「記念行事に当たった代は災難」とする「OBはお荷物」観が蔓延していくようになる。

二十五周年記念行事後、現役からの呼び掛けで大々的にOB会設立運動が展開される。昭和60年8月、初めてOBも機構に関与したOB総



サンゴウチョウ

会を開催。しかしながら、会費が僅かしか振込まれないという現実の中で消滅した。

OBとの交流の一助ともなったBH誌は、その翌年6月の27号を最後に休刊となる。現役員数は減少の一途を辿り、学年あたり1桁にまで落ちた。

そんな状況の中、三十周年行事が遂行され、BH6年分一括号にわずかの記載を残す。

（加筆：この代周辺からの会費納入は極端に少ない。それは社会に出てまもないから「当然」とされた。「10年、20年たてば我々のように懐かしくなるはず」とも弁護(?)されたが、減少のみをたどった。この代の人達にとって、30年分のOBがどう映ったのか？成りたいOB像、参加してみたいOB会であったらうか？）

今回三十五周年に先立ち現役から、設立運動時名簿を使い、同期の住所確認依頼が、各期地元在住者宛て、発送された。が、転居先不明、返信なしが相次ぐ。当時教養部を残して他は角間へ移転、部の活動形態も不安定。そんなさなかに蒲原氏の遺難死亡事故が起きる。名簿確認作業は、棚上げ状態となる。

舟田が、35周年記念誌編集と、35周年実行委員会を立ち上げるべく、その名簿を引き取ったのが事故の3カ月後となる。

《趣意書》 平成5年3月20日

皇太子妃内定の明るいニュースで明けた平成五年、金大ワングルOBの皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

ご存じのように、9月の教養部移転をもって金大は城内キャンパスの歴史を閉じることになりました。私達(33期までで、468名)の青春を見守ってくれた部室もその任を終え、ワングルの新しい歴史が、角間キャンパスに始まるうとしています。

このような節目の折にあわせて、部は創立35周年を迎えることになりました。今回の記念行事を現役とOBの共催とすべく、1月13日、金沢にて「金大ワングル35周年記念実行委員会」が発足いたしました。(決起総会には、前田顧問、OB25名、現役10名が出席)

OBの側にとっては、いよいよ敷居が高くなる思いのつめるこの度のキャンパス移転です。しかしながら、温故知新として部の35年のあゆみの歴史を正しく伝え、さらに揺るぎない新しい歴史のスタートを願いたく思います。

また、名簿管理を含むOB会機構を今度こそ確立し、現役側に住所調べや連絡費用の負担をかけないことで、現役・OB会双方の発展を望みたく思います。

また、部室のなくなる状況、築後18年を経て倒壊寸前、放置状態になっている山小屋ベルクハイムに対しても、アドバイスやサポートを保障することで、解決の道を手助けしたく思います。

35周年記念誌については、現役も交えた編集委員が、昨冬より活動を開始しています。その他につきましては、13日の決起懇親会で選出された実行委員が、記念行事に併催する予定のOB総会に諮るべく、案件を煮詰めています。

つきましては、何卒右の趣旨にご賛同下さいまして、よろしくお力添えをいただけますよう、発起人一同お願い申し上げます。

《35周年記念事業》 平成5年8月20～21日

記念山行…白山

総会…石川厚生年金会館

35周年記念誌上・下は平成5年7月完成。7月20日、記念事業協賛金依頼振込用紙（振込人名印刷済み）を同封し、現役を主力に大発送作業を行う。結果、振込総額 2,665,000 円。

それは 記念誌代 1,276,958 円

連絡・郵送費 523,916 円

を大項目とする支出を賄い、691,644 円（①）の残高となって、OB会のスタートを支えた。

この時34期までの卒業者は 494名（*）

内、振込対象者 472 名 振込者 365 名

白山記念山行参加希望者 94名（家族18込）

総会・懇親会参加者 101名

（*趣意書内より、+34期+名簿追加）

上記35周年記念誌上下と、35周年事業報告書は、次の40周年も円滑に迎える布石として、続く5年分の未来の現役分を増刷してあった。OB会報冬号に、約1年経過の新人分の上記セットを添えて渡してきた。

しかしながら、アウトドアブームは、組織加入とリンクするものではなく、5年でなくなる見込みが10年に。それでもついに5セットを残すのみとなった。

私の音頭とりで集めたお金、制作した本…すべてこの10年で清算できたことになる。これが「責任は終わった」とする、何よりの根拠である。

《40周年記念事業》 平成10年9月12～13日

記念山行…医王山

総会…医王の里・森の家

ワングル歌集を作成。年会費納入体勢を踏まえ、OB会計から参加費補助が出る形になる。

ワングル歌集作成費 279,000 円

当日参加費計 309,000 円

参加者 69名（家族11名込）

OB会計より補助 333,884 円

40周年終了時残高 760,478 円（②）

②=①+6万円で、平成6～10年度会計を終了

《45周年記念予定》 平成15年9月13～14日

総会…白峰村 みどりの村

参加記念品 中村元風氏（20期OB）
前田家御用窯指定、日本工芸会正会員
作： 限定品 白山柄白磁カップ

現在45周年行事開始前残高 674,473円（③）

③<① 現在①を利用しつつ、運営中の状態。

会報は14号より、1年1冊体勢になった。ちなみに本誌は16号である。

41期OBより、入会意志を問い、単年度納入に切り替えられている。この10年でOB総数は100名近く増えたことになるが、納入実績対応の会報発送対象者は358名。

以上、記念事業を中心にOB会の歴史を振り返りました。

さて、輝かしい数字なのでしょうが？重ねた実績なのでしょうが？

もし本当の実績が出来たのであれば

「年会費は、自発的に、催促なしに振込まれ」

「住所変更も、自発的に報告され」

「役員の為り手は、交替で、次々と」

「会報原稿は、自発的に集まり」

「脱線してはの賑やかな編集会議…」

となっていたはずですが。

以上の愚痴は、

「他の同種の会より、はるかにマシ」

「世の中そんなもの」

「まあまあそんな怖いこと言わないで…」

となだめられました。あげくには

「舟田がやりすぎるから」

の言もつけ加えられました。

少数の方にはある種の提言をいただきましたが、その二言目には「自分ではない、誰か…」がつけ加えられました。

KUWV・OB会が出来なかった理由、続かなかった理由…

「年代差がありすぎるから」

「年代毎の価値観が違うから」

「世話役が現役だったから」

ではなさそうです。

戦後、権利獲得のための戦いなしに、混沌の中で転がりこんできた「自由」。おそらく、賠償責任をなしとされたことで、「そうだ、自分達も被害者だ！」「責任はない！」と、反省をすることなく、繁栄に突っ走っていった…。

豊かになっても、かつての恩に気は回らず、繁栄したのは自分達の努力のせい。下の代が面倒を見るべき…。

要するに、「権利」「平等」「自由」などのおいしいものには、本来すべて「義務」が付きまとうことを意識できない。無責任を謳歌し、物綺麗なヒューマニズムを音頭して人道面をし、つままとう義務部分は全て他人に押しつける…つまりは下の代へ。

赤字国債が、未来を食い潰しているのを政治家のせいとし、一方で「国は…、県は…」と四次元ポケットがあるがごとく、せびることを止めない。

理詰めをやられると、農耕民族由来の「なあなあ、まあまあ」の曖昧さで、丸める。事態を直視せず、さらに無責任の安泰をはかる。

すべてわがOB会に重なりませんか？



わけてもモラトリアムそのものだったのが学生時代でした。山は情熱だったのか？といえば、「遊び」だったのでしょう。「遊び」だったから懐かしい。けれども「遊び」だったから、忘れるのです。「遊び」だったから、責任が伴うの発想が入らないし、関わるなら楽しい部分だけ。そして「誰か…」としかならないのでしょう。

「節ちゃんのは長すぎて読めん」
とは、同期にも言われました。それは本音でありましょう。

払う物は払った。やる人も決まった。自分は忙しい。興味のあることだけ、自分の知っている人のだけ…ささっと読んで、ああ懐かしい、面白かった、今日の酒はうまい、でお仕舞。誰かが（私が！）OB会に割いている時間、一行の手数…早い話が、手伝えるわけじゃない。知らんOBやら、現役やら、読んだかてしゃあないやん。せめてご苦労さん！あ、ありがとうございます！

（私、あんた達の方までワングルにお返ししたからね！永遠におごっても、足りないくらいだからね！）

みんなが社会から受けた恩より、もうちょっと余計にお返ししてこの世を去れば…そうでなければ、社会に貢献できた分より、ちょっと控えめに受けようの節度があれば…日本はオトナの国になることでしょ。今は

「貢献した分より余計にもらいたい人」
「お返し出来ないのにさらに要求する人」
「面倒をみてもらう立場であり続けたい人」

ばかりが溢れているのです。

いったいどこで辻褄が合うのでしょうか。「世代の助け合い」という綺麗事のツケを払わされるのは選挙権もない、生まれてもない世代です。その人達はどこへツケを先送りできるのでしょうか？

ワングルOB会も、年会費を払ったら、自分は一方向的にサービスを受けるのみ…それで正当、仕方がない…とする人ばかりなのです。年会費を払ったらそれでもう義務はおしまい。

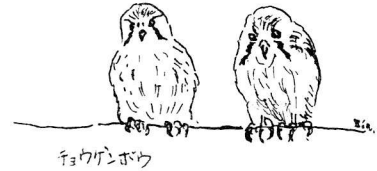
「替わりばんこ」も「地区別分担」も、一切どうしたらなんて考える気はない。いつもいつも「誰か…」で、「自分は遠いから」「忙しいから」と当番の圏外にいる。担当者達が次を考えるだろう、次を指名する責任があるとして、「自分にも会運営の責任が平等にある」なんて自覚したこともないのです。反省もなしに「下の代がやるべき！」なのです。

10年もやれば、見えてくるのです。

「懐かしい」と便りが来るのは、当番を回されるはずなしの遠方組で、回されたいへんと警戒する地元組は、云々も反応してこない。

「卒業者はみなOBと扱うべき」を主張するのは、「自分は当番の枠外にいる、自分は完全に面倒を見てもらう側である」が前提のOBばかり…それは、金銭収支にも曖昧を通し、過去と理想に酔い痴れている姿でもありました。

「関わる＝面倒を押しつけられる」が予想できる代は、反応してこない。辻褄の合わないこ



の先が見えているから。うかうか乗れば膨張した負担が送りつけられる事は簡単に予想できるから、引いてしまうのです。

かつて、私は世代ごとのOB観に攪乱されました。すべてを満足させる会など出来ないとも達観しました。そして1年前の「辞任宣言」の後のわずかな反応と、多数の無反応。結果、これぞ「普遍の真理」を掴みました。

世代ごとのOB観や、理想感のずれがあったものではありません。どの人も「自分が責任から外れられる」OB観を主張し、それが正しいとしていました。

自分の実像を見た人間はいません。鏡に映る虚像が精一杯なのです。実像とは他人の方が見えるものなのです。そのように、責任から逃れたい人が、その視点から構築したOB論を展開しても、相手への説得力はありません。「どうやって責任を分担していこうか？」なら、歩み寄る方法もあるでしょうが…。

金大ワングルOB会の場合、討論の場を設定しても、どうにもならないことと私は考えています。

また、この10年でワングル時代との距離を痛感したOBはかなりいるはず。あれは昔のことだと、OB会が出来たから、かえってそれがよくわかった。今後はもっと距離が出来、ますます忘れるに違いない。年に二千元は払えない額ではないが、会員管理に手数をかけ続けるのも心苦しい。出来れば区切りをつけたい…がむしろ多数派と私はみえています。

もちろん、会費の形で金銭的支援を続けて頂く…これも、OB会への参加の仕方です。でもこの善意は必ず忘却に流れます。仮に1回目を振込んでも、2回目からは忘れるのです。事務局（誰が？）の負担は減ることがありません。時間も金銭も浪費され、またも自然消滅してしまうのです。

誰も世話人をやりたがらない…これがストレートにOB会の現状であり、このOB会の器です。

多くの方が望んでいるのは、気晴らしになればよいOB会です。それも、受けることばかりを望んでいるOB会です。この事実は、「誰か」に押しつけたら解決をみるものではありません。

また、「続く」ことのみがベスト、解消はワングル魂の敗北とばかり、現状も、各自の事情も、時間経過も、思考ファクターに取り込まない主張。これはむしろ「一億総玉砕！」に似ています。息まいたうえに「誰か…」とこられたら、私は返答の言葉を持ちません。

みんなが楽しめた10年で大団円。それでよいのではないのでしょうか。今なら、収支も、丁度。犠牲者も負債も出さずに解消（休会？）出来ます。

私は10年を総括するまでです。今後については、総会にてご討議下さい。

ただし、私は上記のように、発展的解消を是としていますので、記念行事に出してしまうと…の二の足は無用です。というより、私としては大事なお願いがあります。

それは、みんなの夢のために同じ多忙のOBでありながら、多大の時間を割いていたスタッフ達がいいます。この際謝意を表明し、盛大な拍手でねぎらうのが筋というものです。

この10年の間には、私は、厚意を仇で報いた個人やグループを何例も見ました。わがワングルこそはそこまで破廉恥ではない！と、信じます。

この総括自体、「なじり言葉」に溢れてしまいました。みなさんの「お忘れ」がすべて仕事に変貌し、解決せねばならないノルマになっていた私には、そうとしかいえない部分です。しかし、振込みに足を運んで下さったみなさんのご厚意を忘れるものではありません。

共にワングルOB会の十年をつむいだ者同士盛大な宴を楽しみましょう。

万障繰り合わせ、ご参加下さい！



ホシガラス

主将になって

（部員のみんなへ）

45期 松山 文枝

主将になって、「部活をまとめられたな〜（〇〇）v」と実感出来たことは一度もなかったが貴重な体験を積ませてもらったと思っている。

主将になったことで、部員のいろんな意見を聞く立場になり、考え方の違う意見を組みながら進めていくことは難しく、頭を抱える事が何度もあった。

意見を取捨選択してしまったこともあった。また、最終的な判断を求められ、果たしてこう判断していいものなのかと迷いながら、決断し進んでいくこともあった。

ワングルに入って、求めるものは人それぞれだから、色んな意見が出てくるのは当然で、色んな意見が共存出来るいい方法はないものか、とよく思うようになった。

それにも関連して、PWは、自分のしてみたい事が叶えられるいい機会だと思っている。2回生になってL権を取れば、誰でもPWは出せる訳だし、何といっても主体的になれる！これはPWのいい所だ。（2002年度後半はPWが少なくなってしまったが…）

最後に、副主将の深作さん、3回生のみなさん、後輩達に「ありがとうございました。」

2002年度のワングル

* 部員数 1 回生12人（男11 女1）
2 回生7人（男2 女5）
3 回生6人（男3 女3）
4 回生12人（男7 女4）
留学生5人（内3人は9月に帰国）

* 2002年度年間行事

3月 1・2年山行（北八ヶ岳 佐渡島）
4月 歩荷トレ（卯辰山）
5月 小屋作業 新入生トレ（医王山）
6月 夏合宿結団式 合宿トレ①（県内）
7月 合宿トレ②（白山）
8月 夏合宿3P（北ア 南ア 北海道）
12月 冬合宿（荒島岳）
1月 追コン
2月 雪訓（医王山）
3月 春合宿

* 2002年度PW

5月 鳳凰三山
6月 白馬
7月 白山
9月 燕岳・餓鬼岳 八ヶ岳
10月 白山

* 2002年度ちょっとしたできごと

EPIの導入

厚生課に10日前までに計画書を出さなければならなかった。



【顧問の独り言】

2002/03/18

ワングル顧問の前田です。現役恒例の雪上訓練・医王山（2月24日（土）、25日（日）1泊2日 非常1）の計画は医王の里（幕営）だけで下山、替わりに3月3日、日帰りで行って来たようです。続いて春合宿ですが、珍しく南アルプス・仙丈ヶ岳偵察の計画書。厳冬期（新年）甲斐駒・仙丈のPWが途絶えて久しぶりに聞く名前です。ところがこの偵察、事前の情報収集を怠ったせいか、林道工事の通行制限に会い、合宿は無理と判明。甲斐駒ならぬ木曾駒に登って帰ってきました（そのままだけしなかった根性は評価したいと思います）。そこで合宿本番は、勝手知った北アルプス・〇シ岳に変更、その計画書を持って3/14（金）大入山手続き初日）研究室にやってきました。「テント場は八方池よりも下津のほうが多く、五竜・鹿島槍の眺望もあって断然いいゾ」「そうします」の会話どおりになれば、一部変更となります。

2002/04/29

春合宿・唐松岳は八方池近くの風の強い所にテントを張り、ポールをいためて早々に撤退。防風プロックもろくに積み上げることができなかったのよう。エスパースが立体形にならず平面形になった、と言っていました。

最近の1・2年山行は3月末か4月初の春休みに実施されます。年度替りや学年替りに学生諸君も大目も傾けていません。以下の（遅くなった）「1・2年山行」の届出はそのような事情をご理解ください。なお、昨年の鹿島槍PWに続いて今年は（南アルプス）鳳凰三山PWの計画を出してくれました。顧問にも誘いがかかっています。「お荷物」にはならないようにと思う一方、長い移動時間中の「勉強」に何を持っていいかと思う、南アルプス初心者です。

なお、5月12日に東京で学会がありますので、11日の夜行で出かけています。

2002/05/09, 19

新入生の顔ぶれも決まってきたようです。このところ女性部員の加入が多く、リーダーシップを発揮することも当たり前になってきましたが、今年は紅一点です。その代わり国際色豊かになっています。新入生トレーニングの計画書、お送りします。

顧問の前田です。南アルプス・鳳凰三山行ってきました。金沢では4日は雨、5日もぐずつき気味の天気だったようですが、気圧の谷の通過した4日に夕方から夜にかけて小雨になったくらいで、5日は途中の薬師岳小屋では日焼け止めクリームを取り出したほどです。大きな富士山も見えた3日目は、5時に行動を開始し17時まで歩いて御座石鉱泉まで下山、幕営。この鉱泉旅館、インターネットでも芳しくない情報が流れていますが、それを体験しました。それでも翌日6日は甲斐駒、鳳凰三山を中央線の車窓に見て足の痛さをしばし忘れ（乗り換えの階段では思い出し）、大系線では常念、後立の山々を眺め、南小谷のラーメン大学で昼食をとって4人娘に男3人、金沢に戻って来ました。往きはといえば、松本までの高速バスが空席なし。信越・篠ノ井線回りの普通列車では、連休明けには出さねばならない原稿の初校に集中することができました（甲府中央郵便局から投函）。

5/11・5/12の小屋作業の計画書が届きました。団体装備の中にはナカオ、OB会の分の酒類も含まれていますが、もしかしたら鳳凰三山で飲み残した梅酒、下山パーティから差し入れられた日本酒が混じっているかもしれません（?）。

2002/06/14

ワングル顧問の前田です。夏合宿に向けてトレーニング山行の計画書が出てくるようになりましたが、その前に大雪渓を登って白馬岳を訪ねてくるというPWが企画されました。三国境付近のウルップ草の群落をカメラに収めてくるには、遅くなった夏休みになってからでは間に合わないのどこか適当な土日だと考えていますが、6月では早すぎますので「同行を申し出る」ことはありません。

2002/07/10, 18

ワングル顧問の前田です。夏合宿に向けて第2回トレ山（白山）も始まりしました。北海道パーティは南・北アルプス組より1週間遅れです。東京での会議などのなかった7月6、7日、夏山に備えて私も白山足慣らしをと考えていたのですが、折しも金沢大学は文部科学省の打ち上げた「top30」（21世紀COE）への予算の重点配分に向けて書類作りの真っ只中、研究室から暑い夏空を恨めしく見つめていました。

ワングル顧問の前田です。新様式での「現役学生の部屋」第2弾です。本番夏合宿前に穂穂の縦走をやらかそうというのです。20年余り前だったでしょうか、合宿後のPW計画が顧問もついて行くというのでOKになったということもありました。その折、私はいい機会とばかりに奥穂で一行に別れ、トブコーンホースマンを担ぎ西穂を経て新穂高に下りて来た、と記憶しています。

2002/07/31

ワングル顧問の前田です。夏合宿前のPW2組、いずれも下山予定日より1日早く下山の報告電話がありました。天候、メンバーの体調などを考慮してとのことですが、合宿を済まさない一人前にはなれないということでしょうか。金沢大学角間キャンパスのバスダイヤは8月3日から学期末ダイヤです。それまでは教養的科目の学期末試験があったり、メンバー全員が揃っての合宿出発も必然的に遅くなります。そんな間隙を縫ってのPW計画、暖かく見守りたいと思います。夏合宿計画が出てきました。古典的な手書きのものも健在です。この北海道パーティ、例年のコースと比べ、日数を増やしウエアエーションをつけているように思えます。北海道の山は、学会の合宿の折に大雪山・トムラウシ間を2泊3日で単独歩きし、ドイツ留学後家族5人で旭岳から黒岳を経て層雲峡に下りたくらいで、あまり地理には明るくありませんが、山の本では読んだことがある、しかし計画書では見慣れない地名も出てくるように思います。ワープロ作成の夏合宿計画（北ア）とPW計画も来ていますが、メールが届くのを待ってお届けします。

私も、来週にはSackを担いで、3泊4日（少なくとも2泊3日）くらいの山旅に出かけたいと思っています。その足慣らしのため、7/21白山に日帰りしてきました。本当は、別当合に出るに昼過ぎに着くバスで出かけ、南竜に1泊して釈迦岳経由で市ノ瀬というコースも考えたのですが、満員のため例年のパターンとなりました。

2002/10/01

秋のPW計画、お届けします。9月21日信州大学に出かけた帰り、松本駅で「先生！また缶ビール買っている。」と声をかけられました。ハケ岳PWのメンバーでした。晴天続きで富士山もよく見えたとのことでした。中宮道PWは、ガスのため日帰り白山行きとなった7月PWの敗者復活戦のようなものですが、メンバーは異なっています。燕・餓鬼の女性PWはもちろんのこと、この2つのPWも女性リーダーです。

2002/12/23

ワングル顧問の前田です。冬合宿の計画が届きました。一昨年、病人が出たため、1日目の行動を途中で打ち切り、2日目に下山した荒島岳です。当初は2泊3日の予定が、偵察の結果、3泊4日に修正しています。私は、1日目にルートファインディングにてこずることがなければ小荒島過ぎまで十分いける、2日目はそこから荒島ワンデリング、3日目に下山で2泊3日も可能だと言っているのですが、現地では判断することになるでしょう。

冬合宿、当初は2パーティ編成の予定でしたが、学業の都合とかで参加者が減り、1パーティ10人となりました。かくいう私も微妙な立場です。26日に任意参加の会議が設定されたからです（学長にはワングルについていくと言っています）。



[illegible]

白馬岳P.W.は1日目時より日が差す程度でほとんど曇っていました。この時期の雪渓は白馬尻からあり、また落石が起こったりもしました。そのため体力・精神力ともに消耗しましたが、どうにかテント場まで着きました。2日目は御来光は望めませんでしたが、晴れた白馬岳を味わえました。白馬乗鞍の下りは雪があり、急でしたがそれ程危険ではありませんでした。9月もまた行くようなことがあれば今回と比較して楽しみたいと思います。



2002年 第1回トレーニング山行 (北海道パーティー)

- 42 -

[日程] 2002年8月7日～19日、10泊11日 (予備3、非常1)

[山城] 十勝岳、大雪山

[目的] 北海道の大自然を堪能する

[行程]

<1日目> 金沢駅####東舞鶴駅---舞鶴港〜新日本海フェリー

<0日目> 海上

<1日目> 〜〜小樽港---小樽築港駅####札幌駅####旭川駅####美瑛駅==バス==白金野営場 (幕営)

<2日目> 野営(1)---望岳台---雲ノ平分岐---十勝岳---上ホロカメトック山---上富良野岳

<3日目> 泊(2)---十勝岳---美瑛岳分岐---美瑛富士分岐---ボンピ沢---美瑛富士---美瑛富士キャン

プ場 (野営(3))

<4日目> 野営(3)---ベベツ岳---オプタテシケ山---双子池キャンプ場 (幕営)

<5日目> 野営(4)---コスヌプリ---ツリガネ山---三川台 (幕営)

<6日目> 野営(5)---南沼キャンプ地---トムラウシ山---天沼---ヒサゴ沼避難小屋 (泊)

<7日目> 泊(6)---化雲岳---五色岳---忠別岳キャンプ指定地 (幕営)

<8日目> 野営(7)---忠別岳---高根ヶ原分岐---白雲岳キャンプ指定地 (幕営)

<9日目> 野営(8)---白雲分岐---白雲岳---北海岳分岐---黒岳石室 (幕営)

<10日目> 野営(9)---北鎮岳分岐---北鎮岳---間宮岳---裏旭岳キャンプ指定地 (幕営)

<11日目> 野営(10)---旭岳---旭岳石室---姿見++(ロープウェイ)++旭岳---旭岳温泉===旭川 駅####岩見沢駅####札幌

駅

エスケープ・ルート 略

[連絡] 山本資治 福村岳代

[メンバー]

L 森本達也 (工-機械3) s L 古田弥生 (教-学校教育3) 医 松本瑞恵 (経-2)
伊藤亜希子 (理-地球2) 鈴木 宙 (文-文1) 林 佑次郎 (薬-総合1)
山本一成 (薬-総合1) 渡辺 駿 (工-土建1)

2002年 八ヶ岳PW

[日程] 2002年9月18日 (水)～21日 (土) 3泊4日 予備1 非常1

[目的] 八ヶ岳の自然を満喫する。

[山城] 八ヶ岳

[行程] 1日目

金沢####糸魚川####松本####小淵沢---観音平 (幕営)

2日目

観音平---雲海展望台---編笠山---青年小屋---権現岳---キレット小屋 (幕営)

3日目

キレット小屋---赤岳---横岳---硫黄岳---ヒュッテ夏沢---箕冠山---東天狗---西天狗---黒百合ヒュッテ (幕営)

4日目

黒百合ヒュッテ---渋の湯---茅野####松本####糸魚川####金沢

[メンバー]

L 岩田奈穂子 (工-物化2) 荻田真憲 (工-土建2) 医 徹田聡子 (薬-製薬2)
松本瑞恵 (経-2) 中西浩之 (薬-総薬1) 八十嶋 仁 (文-人間1)
山本一成 (薬-総薬1) 森本達也 (工-機械3)

白山中宮道紅葉PW

[日程] 2002.10.5 (土)～10.6 (日)

[山城] 白山

[目的] 紅葉を楽しみ、夏の疲れを癒す。中宮温泉に入り美肌になる。

[行程] 1日目

金沢大学== (車) ==別当出合---甚之助ヒュッテ---黒ボコ岩---室堂---御前峰---大汝峰---

お花松原---北弥陀ヶ原---ゴマ平避難小屋 (泊)

2日目

ゴマ平避難小屋---シナノキ平避難小屋---中宮温泉

[メンバー]

L 徹田聡子 (薬-製薬2) s L 松本瑞恵 (経-2) 医 古田弥生 (教-学校3)
福村岳代 (教-障教4) 伊藤亜希子 (理-地球2) 荻田真憲 (工-土建2)
池田幸平 (工-人機2) 山本容子 (医-保1)

A Training Camp in Winter at Mt. Arashima

[日程] 12月26日～29日 (3泊4日、予備2日非常1日)

[目的] 雪山での基礎技術を訓練し、雪上での生活になれば、雪山の静寂さ、広大さ、素晴らしさを体験する。
団体生活を通して、同回生同士はもちろんのこと、他回生そして顧問との交流を深める。

[行程]

1日目 金沢大学 == (バス) == 中出 --- 水郷 --- オオバコ展望台 (幕営)

2日目 オオバコ展望台---小荒島岳---石楠花平 (幕営)

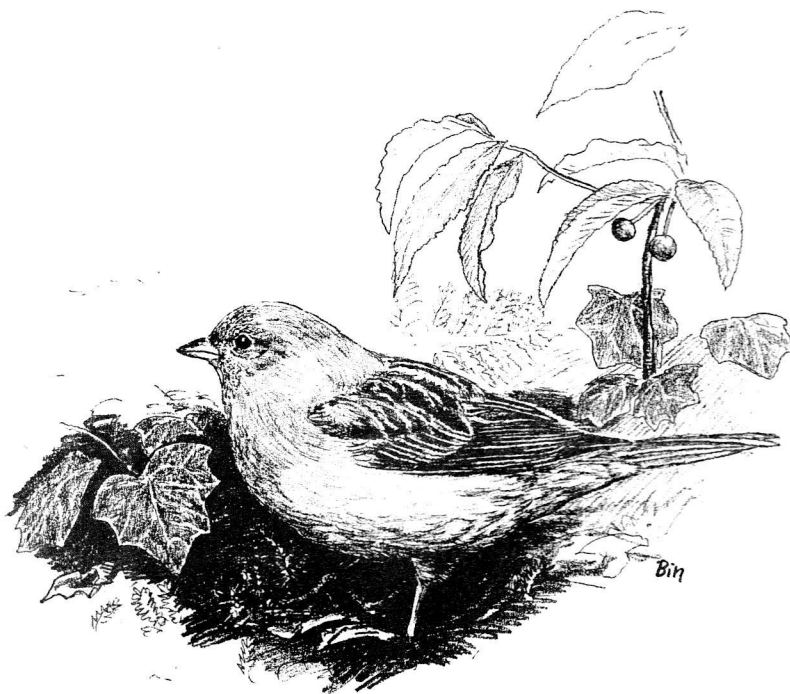
3日目 石楠花平---荒島岳(往復)---石楠花平 (幕営)

4日目 石楠花平---勝原スキー場 勝原駅 == (電車) == 金沢駅

[メンバー]

c L 深作亮太 (工-人機3) s L 森本達也 (工-機械3) 古田弥生 (教-学校教育3)
竹内雅幸 (法-公シス3) 池田幸平 (工-人機2) 徹田聡子 (薬-製薬2)
山本容子 (医-保健1) 久岡雄介 (法-法1) 八十嶋 仁 (文-人間1)
前田達男 (顧問)

[連絡] 西 大輔 松山文枝



クロジ

白山の登山道沿いに多い。
春から夏にかけて、登山道
を歩いていると、
「フォー、ツイ、ツイ」
というような声が繁みの中
から聞こえるが、姿は見つ
けにくい。

OB会報「やまざと」16号
(' 0 2 冬号)

発行日 平成15年2月

発行者 奥名 正啓

編集責任者 舟田 節子

印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局 ☎920-0911 石川県金沢市橋場町10-49

☎076-222-9288 (舟田 節子)

E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp

URL <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ma-okuna/index.htm>

奥名会長 E-mail ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp

名倉名簿担当 E-mail nag@kso.njk.co.jp

振込口座 郵便局 00780-3-14120 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

〃 北国銀行本店 普223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会